

独立行政法人 国際協力機構
中国国際センター
Chugoku International Center
Japan International Cooperation Agency



16-3次隊出発表敬
(左から桐田隊員・澄田島根県知事・木村隊員・熊倉JICA中国前所長) 2005年10月 発行

Vol. 9

青年海外協力隊

青年海外協力隊は、自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたいと思っている若い人々を派遣する事業です。派遣期間は原則として2年間。協力分野は農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツの7部門、約140種と多岐にわたっています。

協力隊員の活動は、派遣された国の人々と共に生活し、働き、彼らの言葉を話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進させる形で協力活動を展開していくことです。協力隊は、技術や知識を活かして、開発途上国の国づくり、人づくりに身をもって協力するものです。

青年海外協力隊は、青年たちの海外に向けた熱い思いに道を開こうと、1965年(昭和40)4月20日、局長を含めて7人のスタッフで発足しました。ラオスへの初派遣から始まった事業は、発足以来約40年間で80カ国(アジア、アフリカ、中近東、中南米、大洋州、東欧)へ、計26,000名(2004年12月31日現在)以上の隊員を派遣しています。そして、青年海外協力隊は今年、発足40周年を迎えました。これを記念して、10月29日にNHKホールで記念式典が行われます。これに合わせて代々木公園で「JICA ボランティア・フェスタ」が開催されます。

中国地方からも、これまでに1,700名以上の方々が協力隊員として途上国に派遣されています。広島県出身の隊員が平成15年からは、派遣前に平和記念資料館で、「平和教育」プログラムを受講するようになりました。その結果、昨年7月にはニカラグアで派遣中の隊員が3都市5会場で「原爆展」を開催し、約4,000人の来場者がありました。今年は、広島および長崎の被爆60周年ということもあり、この動きが他の派遣国にも広がり、現在までに、6つの派遣国(タンザニア、ケニア、フィリピン、パキスタン、チリ、ハンガリー)で同様の催しものが実施され、多くの現地の人たちが見学に訪れました。中国地方の新聞やテレビでも、これらの活動が取り上げられました。



原爆展ポスターを見つめるニカラグア市民

中国5県及び広島市の国際交流財団法人には、JICAの国際協力推進員が配置されています。国際協力推進員とは、青年海外協力隊または日系社会青年ボランティアのOV(Old Volunteers、OBまたはOG)で、ボランティア事業や開発教育支援といった各種のJICA事業の各県の総合窓口として、海外ボランティアの経験を活かして活躍しています。国際協力についての相談窓口ですので、何かやってみたいとお考えの方はぜひ一度連絡してみてください。

また、JICAでは、途上国の実情を知り、国際協力の必要性を理解していただくために、職員や専門家・協力隊員OV、来日している研修員などを講師として皆様のもとに派遣する「国際協力出前講座」という制度を平成11年からスタートさせました。中国5県においても、多くの隊員OVの方々が、帰国後の社会還元の一環として、この出前講座に参加しています。

個人的なことですが、私の初めての海外赴任はセネガルで協力隊調整員としてでした。まだ30代前半の頃で、家族(妻、1歳の息子)とともに赴任しました。チュニジア事務所長時代(1999~2002年)には、隊員が十数名、シニア海外ボランティアの方々が50名近く活躍されておりました。その後フランスに異動になりましたが、パリでは任国外研修旅行中の隊員が事務所に訪ねて来たり、病気になるいはケガのため緊急に移送されてきた隊員のお世話をしたりといった業務を担当しました。中国国際センターに来てからも協力隊事業とのかわりが続いています。

最後になりますが、まもなく「JICA ボランティア平成17年度秋募集『体験談&説明会』」が開始されます。日頃より募集説明会の開催等にご協力いただいている隊員OVの方々、各県の国際交流・国際協力の担当の方々、各県のOV会、育てる会の方々をはじめ、各県の関係者の方々に厚くお礼を申し上げたいと思います。

JICA 中国国際センター所長 生井 年緒

青年海外協力隊中国5県・育てる会

OB会・育てる会	代表者(氏名・派遣国・E-mail)	会員数
青年海外協力隊鳥取県OB会	会長 西村 聡史 ジンバブエ nishimura_ts2@mailk.torikyo.ed.jp	99名
島根県青年海外協力協会	会長 尾野 明彦 ジョルダン peqeno@web-sanin.co.jp	86名
青年海外協力隊岡山県OV会	会長 谷 智仁 ラオス ttani@f5.dion.ne.jp	256名
青年海外協力隊広島県OB会	会長 岡平 孝司 ウズベキスタン okahira20@ybb.ne.jp	315名
青年海外協力隊山口県OB会	会長 三村 和義 パラグアイ mimu-mino@nyc.odn.ne.jp	140名
広島県青年海外協力隊を育てる会	事務局長 山本 真 tadashiy@soleil.ocn.ne.jp	10名・2団体
山口県協力隊を育てる会	事務局長 於土井 豊昭 odoi@paltopia.com	49名・5団体

山口県協力隊を育てる会は、「平成17年度JICA理事長表彰」を受賞されました。これまでの長期に亘るご功績にお礼致しますとともに、お喜び申し上げます。

JICAの海外ボランティア事業

JICA 海外ボランティアとは？

開発途上国では、様々な分野の草の根レベルで、ともに触れ合い協働する、自発性と熱意にあふれた青年及びシニア世代の活躍が求められています。

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、開発途上国の住民と一体となっていく現地協力活動を志望する個人を募集・選考し、訓練を受けた者を開発途上国に派遣しています。当該開発途上地域の経済及び社会の発展または復興に協力することを目的として、次のボランティアを海外に派遣しています。これら4つのボランティアを総称し、JICA海外ボランティアと呼んでいます。

	JICA海外ボランティアの区分	募集時期	募集人数
1	青年海外協力隊	年2回募集(春・秋)	800名
2	シニア海外ボランティア		300名
3	日系社会青年ボランティア	年1回募集(秋)	50名
4	日系社会シニアボランティア		25名

JICA 海外ボランティアはどれ位いるの？

現在、約3,600名が海外で活躍中です。
その中で中国5県からは、172名が現在派遣中です。

中国地方5県JICAボランティア派遣実績表

		現在派遣中(内、女性数)		累計(内、女性数)	
青年海外協力隊	鳥取	10	(9)	171	(79)
	島根	17	(7)	222	(85)
	岡山	32	(17)	361	(152)
	広島	56	(25)	640	(268)
	山口	28	(18)	350	(143)
	中国地方計	143	(76)	1,744	(727)
全 国 計		2,649	(1,499)	27,519	(10,915)
シニア海外ボランティア	鳥取	1	(0)	3	(0)
	島根	1	(0)	4	(2)
	岡山	8	(1)	20	(1)
	広島	5	(0)	36	(8)
	山口	6	(1)	17	(2)
	中国地方計	21	(2)	80	(13)
全 国 計		739	(99)	2,283	(331)
日系社会青年ボランティア	鳥取	0	(0)	2	(0)
	島根	2	(2)	3	(2)
	岡山	2	(2)	18	(13)
	広島	1	(0)	24	(13)
	山口	0	(0)	11	(6)
	中国地方計	5	(4)	58	(34)
全 国 計		122	(107)	890	(563)
日系社会シニアボランティア	鳥取	0	(0)	0	(0)
	島根	0	(0)	2	(0)
	岡山	1	(1)	2	(1)
	広島	1	(1)	5	(2)
	山口	0	(0)	3	(1)
	中国地方計	2	(2)	12	(4)
全 国 計		45	(24)	297	(122)
UNV(国連ボランティア)	鳥取	0	(0)	0	(0)
	島根	0	(0)	0	(0)
	岡山	0	(0)	5	(0)
	広島	1	(0)	6	(0)
	山口	0	(0)	1	(1)
	中国地方計	1	(0)	12	(1)
全 国 計		26	(15)	247	(96)
中国地方計		172	(84)	1,906	(779)
全 国 計		3,581	(1,744)	31,236	(12,027)

青年海外協力隊には、一般隊員、短期緊急派遣、シニア隊員、シニア短期緊急派遣、及び調整員が含まれます。UNVは、国連ボランティア計画の要請により外務省から派遣されるボランティアです。

青年海外協力隊とは？

その中で、青年海外協力隊は最も歴史が古く、1965年に派遣が開始されました。今年、40周年を迎えます。これまでに、80カ国で2万6,000人以上の隊員が活躍してきました。はじめての派遣国は、ラオスでした。



協力隊第一期生(昭和40年)

現在お勤めの方も…ぜひご参加ください!

JICAでは、民間会社や公務員として現在お勤めの方々についても、「休職」などの形で所属先に身分をおいたまま海外ボランティアに参加できるよう、「現職参加制度」を整えています。人件費補填制度により、ボランティア派遣中の所属先に対しては、人件費及び諸経費の80%をJICAが負担します。

『地球市民として一緒に考えたい!』をモットーに

青年海外協力隊岡山県OV会 会長 谷 智仁

青年海外協力隊岡山県OV会は、“協力隊に参加して得た体験や感じたこと、そしてそれを通じての思いをみんなに伝え、地球市民として一緒に考えたい!”をモットーに、次の活動を行っています。

- 毎年、“青年海外協力隊員が見た世界”と題して、「帰国報告セミナー」を開催しています。また、JICAによる学校等への国際理解出前講座にも積極的に参加して、帰国したばかりの隊員OVを筆頭に、多くのOVが熱い思いを語っています。
- 活動報告・体験を伝える側である隊員OVの「話し方」のレベルアップを目的に、アイスブレイキングや参加型ワークショップのノウハウを学ぶ「スキルアップ勉強会」を開催しています。
- 任国での活動内容や生活、思いなどを各OVが1枚のページにまとめ、それらを1冊のファイルに編集した岡山県OV会オリジナルの活動報告集“足跡”JICAボランティア活動報告書を作成しています。
- 隊員OV間を結ぶ会報誌「どねんしょんでえ」を、年3回発行しています。



帰国報告セミナーでの萩野OGによる報告

シニアOV現地活動に思うこと

シニアOV 沖 愛子

私は、一昨年の10月から一年間、トルコのトラブゾン市に観光開発の要請でシニア海外ボランティアとして派遣されていました。丁度去年の今頃に、トラブゾン県西部山間のトンヤという小さな町の「ミルク祭」に行きました。その地方は、ナチュラルな乳製品で有名です。使われる塩も自然塩で、おいしさも抜群です。今、世界的に自然派思考(嗜好?)ですが、トンヤのバターを一口食べるだけで、きっとそこへ行ってみたいと思われるでしょう。ですから、それをもたらしてくれる牛は、大事な家族の一員です。もしかしたら、人間よりも大切にされているかもしれません。春になり雪が溶けて麓の村から高原に移る時に、その牛に施す飾りつけの大会もありました。当の牛はどう思っているかわかりませんが、皆一生懸命に飾ってあげていました。評価の程はさまざまですが、自然な環境の中で人や動物が協力している様子は、ほほえましい

ものです。何が自然かという定義にもよりますが、そういった環境の中で素朴に暮らしている暖かい人達には、何か呼び覚まされるものがあります。私達も指導するというより、現地の方から学ぶ姿勢も大切です。この様な環境を崩さない観光化で、地域の活性化に繋がればと、今でも切に思っています。



ミルク祭でダンスを披露する少女達



「飾りつけコンテスト」の牛

あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでにがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター
TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826
島根県松江市学園南1-2-1
くにびきメッセ2F
E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/



長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職種:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団
TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947
鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F
E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html



花岡 潤
青年海外協力隊OG
派遣国:バブア
ニューギニア
職種:村開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会
TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811
山口県山口市吉敷3185-1
E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/



鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職種:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター
TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811
広島市中区中島町1-5
E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



磯村 祐子
日系社会青年
ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職種:日系日本語
学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター
TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037
広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F
E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白 築 健
日系社会青年
ボランティアOB
派遣国:ボリビア
職種:日系日本語
学校教師

岡山県

(財)岡山県国際交流協会
TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2226
配置先住所:〒700-0026
岡山市奉還町2-2-1
E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



藤本 裕美
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職種:家政



協力隊40周年の「活動を振り返って」

昭和40年1次隊
ラオス・野菜



榎林 吉衛 OB

昭和30年代に入り、もはや戦後ではないという言葉が日本国民の中で囁かれ始めた時代、東京オリンピックが華々しく開催され、日本が世界からあらゆる事で注目された時代、日本の協力隊事業が始まりました。思い起こすと早や40年の月日が経過しました。

協力隊事業の推進役の中心に、当時自民党青年局の海部俊樹元総理と青年団運動の国土、末次一郎さんがおられました。日本の青年を海外に派遣し、現地の若者と一緒になり、共に汗を流し、お互いの国を理解し、友好を図る事が基本でした。現在の様に語学の研修が整備されている訳でもなく、「何とか派遣された国で2年間過ごして帰国しろ、これが全て

でした。

今から思えば、無茶な事に思う人もいでしょう。しかし、この事が我々最初の派遣隊員31名に課せられた使命でもあり、個人の責任をしっかりと果たすと言う連帯感、意識改革を与えてくれました。

ラオスには5名が派遣されました。それぞれの技術をラオスの若者と共に汗を流した事が、思い出されます。私は、野菜隊員として派遣されました。特別な受け入れ機関がある訳でもなく、農村に入り周囲の農家を巡回指導しました。現在の様にしっかりと要請開拓もできておらず、何でも知っている事は相手に教えたり、言葉も教えてもらったり、楽しい素晴らしい経験でした。大使館としてもたいして面倒は見なくて、たまに日本食をご馳走になったくらいです。全てが、隊員自身の考えで行われていました。現在と比較すると、昔の方が本当の協力隊活動の様に思います。時代は変化しても、青年の未知なるものに挑戦する意欲、好奇心は不変です。40年を振り返り、隊員として参加した事に誇りを持ち続けてゆきます。

昔の事は、忘れる事も必要かもしれません。しかし、たまには思い出して過去を語る事も一興でしょう。有難うございました。

平成15年1次隊
中国・日本語教師



木南 圭映子 OG

今から10年前。私と協力隊との出会いは、私が高校1年生の時です。それは、当時中国で日本語教師として活動中の協力隊員を紹介する地元の新聞記事。その記事に興味を持った私は、その隊員の方に直接手紙を出してみました。すると、数週間後、たくさんの写真と共に、任地や活動の様子について便箋いっぱい書かれたお手紙が、私の元に届いたのです。

今思えば、大学で日本語教育を学ぶことになったのも、大学卒業にあわせて協力隊に応募したのも、あの出会いがあったからのような気がします。

コンビニ、デパート、外資ファーストフード店、外資カフェ、日本食レストラン…。私が隊員として暮らしていたのは、徒歩5分圏内に、これらすべてがそれぞれ5軒以上あるような場所でした。“協力隊員”というイメージとのあまりのギャップに、正直、大いに戸惑い、後ろめたさも感じていました。

それでも、“協力隊員”としての2年間で得たものは、大きかったと思います。生徒たち、同僚たちと過ごした時間は、私にとっての宝物です。活動では、自分の至らなさを感じさせられることばかりでしたが、学ぶことの多い2年間で

協力隊との出会いから10年。この経験をどう生かすのか、どう社会に還元していくのかは、私の今後の課題だと思っています。



建設中の独立記念塔(首都ピエンチャンの象徴)



授業の様子

各県 国際協力推進員の活動

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。

鳥取県 【学校を挙げてのエッセイコンテストへの参加!】

毎年学校を挙げてJICAエッセイコンテストへ応募していただいている倉吉市立西中学校で、JICA国際協力出前講座を開催しました。今回は協力隊OVの体験談に加え、昨年度全国優秀賞を受賞した倉恒万里子さん（現在同校3年生）が、副賞の海外研修旅行で訪れた中国で感じたことを、同学年の生徒さんたちに発表しました。今年度も、沢山の作品の応募が期待されます。

【国際理解教育研究会が開催されました!】

JICAとの連携事業として、鳥取県海外子女教育・国際理解教育研究協議会が、7月30日に伯耆しあわせの郷で、国際理解教育研究会を開催しました。在外教育機関から戻られた先生方の帰国報告やパネルディスカッション、さらには講師（荒瀬澄枝さん/山口県青年海外協力隊を育てる会副会長）を招いて

の国際理解教育実践ワークショップと、盛り沢山の内容となりました。

【パレスチナ難民写真・絵画・メッセージ展を準備中!】

JICAとの連携事業として、難民支援団体ピースバードが計画しているパレスチナ難民キャンプに暮らす人々と鳥取県の人々との絵画やメッセージを通じた交流事業が、いよいよ本格化してきました。10月9日～15日に鳥取県で開催される生涯学習フェスティバルにも、ブース出展をする予定です。この交流を通じて相互理解を深め、世界平和への意識向上を目指します！（花岡）



パレスチナ難民キャンプに暮らす少女

島根県 「地球のステージ」の公演開催

「地球のステージ」の公演を、8月27日（土）島根県立大学コンベンションホールにて、開催しました。この公演では、世界52カ国で医療ボランティアとして救援活動を行っている桑山紀彦さんが、ソマリア、東ティモール、旧ユーゴスラビアなどで貧困や紛争の最中にある子ども達の明るくたくましい姿を、ライブ音楽と大画面の写真映像、語りを合わせて紹介されました。島根での公演は3回目、入場者数は200名を超え、大盛況でした。この開催には、「地球のステージ実行委員会」と称して、太陽クラブ（しまね国際センター事業国際理解セミナー参加者達）、島根県青年海外協力隊OB/OG及びJICA中国等、様々な団体の協力がありました。また、事前広報イベントとして、浜田市国府公民館で「世界の料理」を行いました（7月31日）。このイベントでは、島根県青年海外協力隊OB/OGが派遣された各国の料理を、地域の人達と共に料理し、食の交流を通して開発途上国への興味・関心を少しでも持ってもらえるように、ワークショップも組み合わせで行われました。今回の料理では、インドネシア「ガドガド」、

バングラデシュ「チキンカレー」、トンガ「オタイカ」、ヨルダン「シシカバブ」、アフリカ「ニヤマ・サザ」、ジャマイカ「ジャークチキン」、アルゼンチン「トマトと豆スープ」などで、参加者の中には各国の色々な料理を組み合わせる新たなおいしい料理を発見されている人、トウモロコシだけを使った素朴な主食に驚かれる人、ただ単においしいとは言えない料理に戸惑っている人、参加者全員色々なことを感じてもらえる機会になったようです。これからも、県民の皆さんが世界の人々の明日を考え、行動していける機会の提供をJICAを通してお手伝い出来ればと思います。国際協力、開発途上国、開発教育に、興味のある皆さんのご意見やご相談を、お聞かせ下さい。お待ちしております。（長富）



地球のステージ 主催の仲間

岡山県 国際理解教育ワークショップ開催(8/23)

学校の教員やJICAボランティアたちが一緒になって、国際理解教育の実践について学びました。小野廣男氏（岡山大学教育学部）は、「国際理解の考え方は日本国憲法、教育基本法に基づいて学習指導要領に記されている」話。三好隆志氏（岡山市立御野小学校）と谷口康代氏（静岡市立清沢小学校）の身近なリソースを活用しての実践事例発表。協力隊体験を元にした、土橋泰子氏（社）青年海外協力協会の命をテーマにした教材や人のつながり、自分の偏見に気付かせる教材製作のワークショップ。この2日間が、短く感じる内容でした。

青年海外協力隊が見た世界～見て聞いて、体験して考えよう! 世界のことを～ 開催
荻野見子OG（マーシャル） 万代ユミOG（ホンジュラス）、森原一絵OG（ブラジル）が、帰国報告を行いました。現地語、写真、衣装、食べ物などを交えた楽しい報告や、カードを見ながら現地と日本の子どもについて考える

アクティビティ、参加者が持参した空き缶で作ったの合奏など、和気あいあいとした雰囲気の中で協力隊体験を感じてもらえる内容でした。

インターナショナルサロン 第2回 開催(9/17)

「ガーナ、カンボジア、マラウイの国事情～教育あれこれ～」と題して、JICA研修員のMr.AGBEKO JULIUS KOFI（アグベコ・ジュリス・コフィーさん）とMr.SET SENG（セット・セングさん）（岡山大学）、青年海外協力隊OBの藤本さんを講師に、理数科教育の現場についてなど、料理や音楽を楽しみながら少人数でざっくばらんに話し合いました。次回は11/14の予定です。（藤本）



ガーナの太鼓

広島県 待望の国際理解教育セミナーが始まります! 初回は10月16日

JICA中国は、昨年に続いて本年度も、(財)ひろしま国際センターとの共催で「国際理解教育セミナー」を実施します。10月から来年2月まで、月1回のペースで全5回の連続講座です。第1回は、10月16日（日）、講師は、(特活)開発教育協会常任理事の山西優二さん（早稲田大学教授）です。「国際理解教育 & ワークショップのABC」がテーマ。国際理解教育や開発教育が初めてという方でも、「目から鱗」の体験ができること間違いなし。とっても楽しく、ためになる講座です。

第2回（11月6日）は子どもの人権ファシリテーターの浜田進士さん、第3回（12月11日）はマレーシア・サラワク州への修学旅行を続ける広島工業大学附属広島高校・中学校教諭の野中春樹さんです。ご期待ください。詳しくは、JICA中国のホームページをご覧ください。

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/tpl/event.html>

福山市教職員研修でワークショップ「100人村」を実施!

JICA中国では、教育委員会や自治体の国際理解研修をお手伝いしています。8月3日、福山市研修センターに、市内の小中学校の先生方が約50人集まりました。JICA国際協力推進員の2人、白築・礪村が進行役（ファシリテーター）となって、有名な「世界がもし100人の村だったら」など、4つのワークショップを体験研修しました。「実際に体を動かして体験することで、開発途上国についてグローバルな視点で感じる事ができた!」生徒を対象に、是非チャレンジしたい」と好評でした。

ご相談は、お気軽に国際協力推進員まで。（白築）



好評だった国際理解教育セミナー

広島市 「青少年国際交流・協力スタディーツアー2005」開催

(財)広島平和文化センターでは、次代の国際協力活動を担う人材の育成を目的として、広島市内の青少年を対象にスタディーツアーを実施しています。今年は7月30日から9日間実施され、13人の青少年（なんと平均年齢17.1歳!）がバングラデシュへと旅立ちました。派遣中の青年海外協力隊との懇談会、地元NGOの活動視察に加え、広島紹介展の実施、ホームステイなど、盛り沢山のスケジュールの中、普段身近に感じることの出来ない開発途上国の実態を全身で感じる9日間になりました。この体験が、それぞれの夢や国際理解に繋がり、将来の国際協力分野で活躍する人材が一人でも多く成長してくれたらと思います。

「国際交流・協力の日」開催

「国際交流・協力の日」が、12月4日に広島平和記念公園内で開催されます。「国際交流・協力の日」は、広島市内あるいは海外で国際交流・協力活動を

続けている市民団体が連携して行う手作りのイベントです。今年は24の参加団体が、「学び」を基調とした様々な国際交流・協力に関する活動を出展します。外国文化の一端にふれるとともに、国際交流・協力活動に関心を寄せ、広島国際化の推進に寄与する「きっかけ」がここにあります。ぜひ参加下さい。

JICAは(財)広島平和文化センターと協力して、今後も広く市民の方に「国際交流・協力」について考える・触れる・行動するきっかけの場を設けてまいります。（礪村）

H Pはこちら

URL: <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi>



多山総合学校前にて

山口県 国際理解教育推進サポーター養成講座

毎年、(財)山口県国際交流協会では、JICA中国と共催で、国際理解をすすめるための講座を開催しています。8月から年末にかけて、6回連続講座で開催中です。今年は、タイトルのとおり、学校だけでなく、暮らしの中、社会の中での国際理解をテーマにしています。異文化は、何も外国に限りません。日本人同士の間でも、お互いの考え方・好みといった異文化が存在します。身近な異文化の存在や多様な文化を持つ人々たちのつながりに気づくところから、世界のつながりに目を向け、また多文化共生の視点から、

地域のまちづくりについて考える機会になればと願っています。こうして講座に参加された方同士のつながりから、世界につながりが広がっていく...。連続講座と言っても、途中参加も大歓迎。秋から冬にかけての講座については、(財)山口県国際交流協会

(TEL:083-925-4144 鈴木)まで。



第1回目の講座(8/6開催)の様子

技術研修の窓

イラク研修員、復興に向けて火力発電の技術、知識を習得する

JICA 中国は、イラク戦争後初めて、イラクからの研修員を受け入れました。

技術研修の開始前には、広島市の原爆資料館を訪れ、「惨事」の状況は、イラクでも同じなので、平和を求める気持ちに共感した。「広島は惨状が今、イラク全土で起きている」と口々に述べていました。

イラクの火力発電所の技師を10名招聘し、山口県宇部市にある中国電力のグループ会社である株式会社パワー・エンジニアリング・アンド・トレーニングサービス（以下、PET）で、約1ヶ月半の技術研修を行いました。イラクでは、多くの火力発電所が老朽化し、新しい機械、部品の補充が必要な状況です。また、日本では機械の組み立て、整備、修理等は各メーカーで対応しますが、イラクでは海外のメーカーから十分なアフターサービスが受けられないため、発電所の技師自らが、修理しながら、なんとか発電所を維持しているという現状です。そのため、PETでの講義やメーカーでの視察では、

各機械の製造方法、原料の配分等について熱心な質問が飛び交い、講義が中断することもしばしばでした。

9月2日に行われた閉講式では、10名全員が修了証書を受領。ナダ・カリルさんは、研修員代表挨拶で「今回の研修は大変勉強になった。日本の技術、手法を学ぶことができたと同時に、イラクの他の発電所から来ている参加者から、事例等を具体的に学ぶことができたので、帰国後も是非、このネットワークを維持していきたい」と発言しました。10名の研修員は、PETでの研修に大満足すると共に、日本で習得した技術、知識をイラクの各発電所で実際に活用することに、強い意欲を示しながら、無事帰国しました。

紛争終結国から研修員
広島初の受け入れ イラクなど男性4人

（広島県）イラクからの研修員を受け入れた。広島県立広島工業高等学校（広島市）で、9月2日、閉講式が行われた。研修員は、イラクからの男性4人。研修員代表挨拶で、ナダ・カリルさんは「今回の研修は大変勉強になった。日本の技術、手法を学ぶことができた」と発言した。10名の研修員は、PETでの研修に大満足すると共に、日本で習得した技術、知識をイラクの各発電所で実際に活用することに、強い意欲を示しながら、無事帰国しました。



実習中のイラク研修員

7/16中国新聞(朝刊)



広げよう! 市民参加の輪

「知る・理解する・そして行動へ」 JICA 中国高校生国際協力体験プログラム

JICA 中国に、中四国9県の高校生63名(18校)が集まりました。8月18日(木)から20日(土)まで、2泊3日の合宿研修です。毎年、元気いっぱいのプログラムになります。今年も、「アタマとカラダとココロ」、すべてに沁みこむプログラムとなりました。参加した生徒たちは、日増しに目を輝かせ、充実した3日間を過ごしていました。

プログラムは、青年海外協力隊の模擬体験を軸とした参加型のワークショップが中心です。「知る、理解する、そして行動へ」。このステップを通して、「今の自分ができる

具体的な行動」を、参加者それぞれに見出してもらうことが目的です。このプログラムには、JICA 職員のほか、多数の青年海外協力隊の帰国隊員、JICA 中国に宿泊中の JICA 研修員、大学生インターンも参加しました。スタッフから聞くことができる生の情報や体験談、そして帰国隊員のはつらつとした姿。これらも、参加者に刺激を与えています。

「自分の置かれている環境を、考えることができました。」「これから、もっと世界のことを知りたい。」「ここで学んだことを、誰かに伝えていきたい。」「相手のことを考えた国際協力が、大切だと分かった。」参加者の今後の活躍を、期待しています。

参加高校リスト

県別	学校名	参加生徒数
鳥取	私立倉吉北高等学校	4
	私立米子松蔭高等学校	2
島根	島根県立江津高等学校	2
	岡山県立備前高等学校	2
岡山	岡山県立総社南高等学校	5
	学校法人吉備高原高等学校	3
広島	広島県立戸手高等学校	7
	福山市立福山高等学校	3
	広島県立呉三津田高等学校	3
山口	広島市立舟入高等学校	3
	広島女学院高等学校	3
愛媛	山口県立下関南高等学校	8
	私立誠英高等学校	4
高知	私立今治明德高等学校矢田分校	4
	愛媛県立川之石高等学校	3
	私立高知中央高等学校	4
	高知県立高知南高等学校	2
	高松第一高等学校	1
	参加生徒数小計	63
	引率教員数	18
	合計人数	81



ワークショップでのグループ発表

～プログラム概要～

【1日目】

- ・アイスブレーキング
- ・もし世界が100人の村だったら
- ・のぞいてみよう! 青年海外協力隊

【2日目】

- ・挑戦! 青年海外協力隊
- ・研修員との交流会・懇親会

【3日目】

- ・知っていますか? 世界の現状
- ・考えてみよう! いま自分たちにできること



JICA ボランティア・平成17年度秋募集『体験談&説明会』会場一覧表

『体験談&説明会』(所要時間:約2時間)は、参加費無料・予約不要・入退室自由、です。

*注)10月29・30日の岡山会場(青年の部)については、「地球市民フェスタinおかやま2005」(岡山国際貢献月間協賛事業)内ブースにて、常時応募相談を受けています。

青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア

県名	日程	会場	開催時間
鳥取	10月29日(土)	鳥取県立県民文化会館	14:00~
	11月9日(水)	米子市文化ホール	18:30~
島根	10月23日(日)	松江テルサ	14:00~
	11月10日(木)	石中央文化ホール	18:30~
岡山	10月15日(土)	倉敷市芸文館	14:00~
	10月29・30日(土・日)	岡山国際交流センター 終日応募相談会	10:00~17:00
	11月8日(火)	岡山国際交流センター	18:30~
広島	10月13日(木)	広島大学大学院国際協力研究科	18:30~
	10月23日(日)	広島県民文化センターふくやま	16:30~
	10月30日(日)	広島市まちづくり市民交流プラザ	14:00~
	11月7日(月)	広島市まちづくり市民交流プラザ	18:30~
山口	10月16日(日)	周南市市民館(保健センター)	16:00~
	10月22日(土)	ばるるプラザ山口	14:00~
	10月31日(月)	宇部市文化会館	18:30~

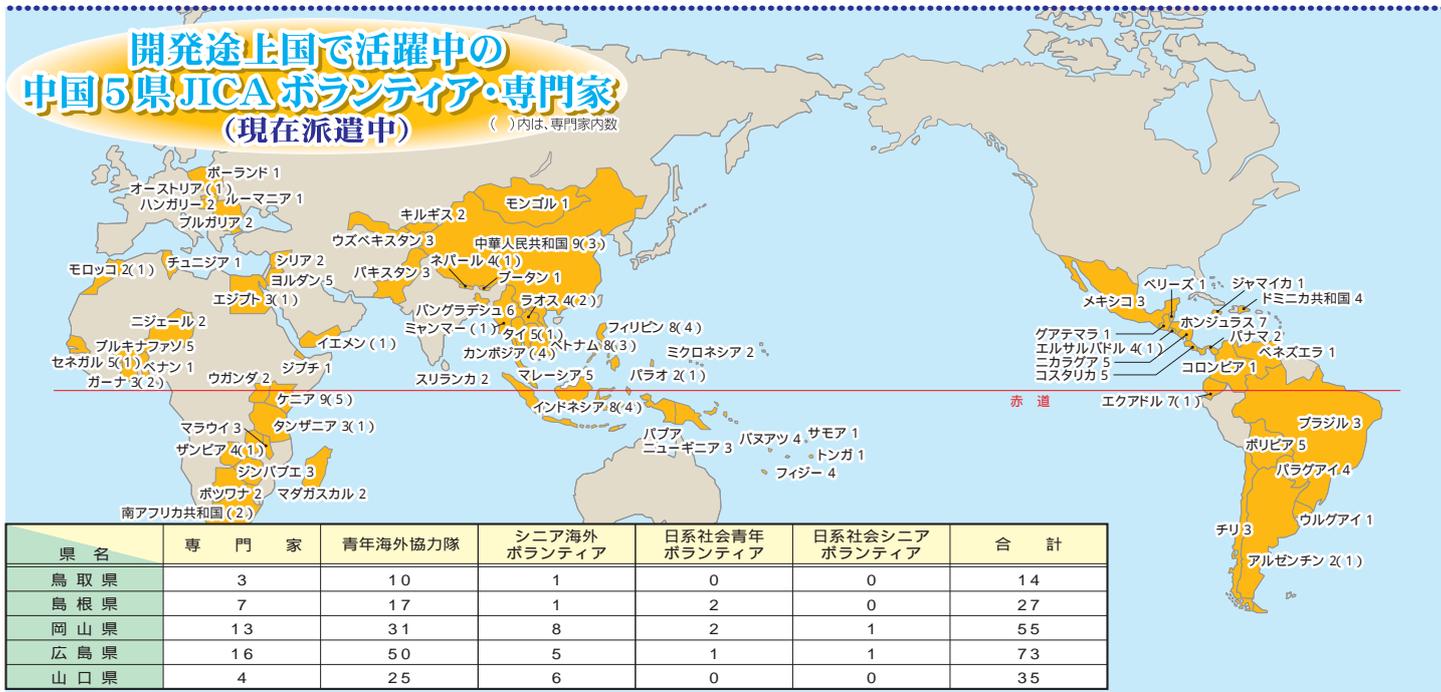
シニア海外ボランティア・日系社会シニアボランティア

県名	日程	会場	開催時間
鳥取	10月29日(土)	鳥取県立県民文化会館	10:30~
島根	10月23日(日)	松江テルサ	10:30~
岡山	10月15日(土)	倉敷市芸文館	10:30~
	10月29日(土)	岡山国際交流センター	14:00~
広島	10月17日(月)	広島市まちづくり市民交流プラザ	18:30~
	10月23日(日)	広島県民文化センターふくやま	13:30~
山口	10月30日(日)	広島市まちづくり市民交流プラザ	10:30~
	10月16日(日)	周南市市民館	13:00~
	10月22日(土)	ばるるプラザ山口	10:30~

お問い合わせは
JICA中国(中国国際センター)ボランティア係まで!

電話:082(421)6310 FAX:082(420)8082
E-mail:jicacic-jocv@jica.go.jp HP:www.jica.go.jp

の会場にはJICA健康管理センターからの職員が出席し、応募に際しての健康の相談等も受け付けます。



JICA中国による ISO14001(環境管理システム)への取り組み

8/10に、JICA、ひろしま国際センター、日本国際協力センター中国支所他ひろしま国際プラザ(HIP)の勤務者を対象とした研修会が開催されました。計33名の参加を得て、「HIPエコオフィス運動」を進めることが採択されるなど、一致団結して、環境管理システムに取り組むことが確認されました。

JICA中国は、「JICA環境方針」(JICAホームページ「環境への取り組み」をご参照願います)のもと、地球環境の保全に向けて最善を尽くします。関係の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



JICA 勤務者による各自の環境管理行動宣言の発表

お問い合わせ

JICA中国 独立行政法人国際協力機構 中国国際センター

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)

TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082

E-mail:jicacic@jica.go.jp

URL:http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html

